

いいね!  
プリバート

# SAPIXにいちばん 身近な個別指導である PRIVATO(プリバート) その魅力をご紹介します。

## 第16弾 国語の学習 本当に「そのやり方」で正しいですか?

中学受験に必要な4教科のなかで、国語の学習が最も取り組みにくいと感じる方は少なくないように思います。「絶対にコレ」といった学習法があるわけでもなく、また、学習してから結果が得点として表れるまでに時間のかかる教科であることなどが、その原因かもしれません。

こうした悩ましい国語学習のヒントにしていただくために、今回は、これまでたくさんの学習相談を受けてきたなかで、どうも誤解をされていることが多いと感じるポイントについて、いくつかご紹介してみたいと思います。

### ご相談例① 「線引き」という作業について

これまでさんざん「線を引け」って伝えているのですが、なかなか線を引いてくれません。先生のほうから、引くように言ってください。また、どこに線を引けばいいのか、本人にきちんと伝えてもらえないでしょうか。

→本文を読む際に「線を引きましょう」という指導はよく耳にします。ここでは、「線引き」という作業をもう少し広く解釈して「印つけ」という意味として位置づけたいと思います。このご相談では、どうも「線を引く」(印をつける)ことが「目的」であるかのように感じられます。「線を引く」のは、あくまでも本人が本文を「読みやすくするための手段」ですので、ただ線を引けばいいというものではありません。しかも、多めに「線を引く」ことで「読みやすく」感じるお子さんがいる一方で、必要最低限の「線引き」のほうが「読みやすく」感じるお子さんもいるため、「どこに線を引くか」「どれくらい線を引くか」については、模範解答のようなものは存在せず、まさに個人差が大きくなります。

また、ひと言で「線引き」と言っても、物語文と説明的文章(説明文や論説文)では、線を引くポイントが異なります。物語文では、少なくとも①登場人物(できればその関係性まで)、②場面分け(時間・場所・人物などに注目して)、③心情が読みとれる箇所(セリフ・表情・行動・情景描写など)といった部分には「線を引く」ことが有効です。一方、説明的文章では、①段落の構成(ただ段落を分けるのではなく、接続語などをヒントに例なのか、意見なのかといった段落ごとの役割を考えて)、②重要なワード(本文中に何度も繰り返されたり、似たような表現で言い換えられたりしている)などに、「印をつける」ことで理解しやすくなります。ですから、同じ「線引き(印つけ)」作業だとしても、読んでいる文章のジャンルによって、書き込まれている内容はかなり異なっているはずで、「見た目」にも明らかな違いがあるのが普通です。

### ご相談例② 演習量と得点力の相関関係について

国語に割ける学習時間の大部分を使って、Bテキストの演習問題に取り組んでいますが、時には最後まで取り組めないまま時間切れになってしまことがあります。もっと効率よく解き進める方法があれば、教えてください。

→こちらのご相談内容を見る限り、設問に数多く取り組むことになり重点を置かれているようです。もちろん国語の得点力を高めていく過程において、それなりの問題演習を積むことが必要となってくる段階はあります。ただし、国語においては、算数のように問題のタイプに応じた明確な解き方が存在するわけではありません。むしろ、文章の内容を正確に把握できさえれば、正解にたどり着ける問題がほとんどですから、やみくもに演習量を増やしていくだけでは、かえって遠回りになりかねません。

まずは「精読」のトレーニングを積み重ね、本文の内容をきちんと読みとれるだけの「読解力」を身につけることが先決です。そのうえで、問題演習を通じて、正解にたどり着くまでの正しいアプローチを身につけることができれば、国語の得点力はぐっと安定するはずです。

### ご相談例③ 受験科目である国語に対する「読書」の効用について

昔から本を読む習慣がないせいで、国語がずっと苦手です。毎週のようにわたしが図書館に行って、中学受験に出そうな文章を見繕って強制的に読ませていますが、国語の成績は一向に改善しません。もっと読ませたほうがよいのでしょうか。

→国語の学習において、読書が大きな効用を持つことは昔から言われていますし、そこに疑いを差し挟む余地はありません。たとえば、読書量が増えていけば、当然のようにどんどん「活字慣れ」をしていきます。文章を読むこと自体への抵抗もなくなりますし、単純に「読むスピード」が速くなることが挙げられます。また、読書が持つ「疑似体験値」を高める効果により、読み手の内面すなわち精神年齢を高めてくれるといった効用も期待できます。ただし、読書をすることがそのまま国語の学力を向上させることに結びつくわけではありませんし、読書をするためにそれなりの時間が割かれることも意識しておく必要があります。また、受験に不可欠な「読解力」という観点からは、どうしても「精読」(本文の細部までていねいに読み込むこと)が求められます。ふだんからたくさんの読書をするお子さんのなかには、いわゆる「斜め読み」といった本文のあらすじを追うような読み方が身についている場合が少なくありません。国語の文章読解が求められる場面で、いつものような「斜め読み」で読み進めてしまうと、確かに早く読み終えることができるのですが、細部での読み落としにつながる可能性も否定できません。状況に応じた読み方の切り替えが必要になります。

### 新6年準備講座 好評開催中!

現在、プリバートでは日曜日に5年生を対象とした「新6年準備講座」を次のようなラインナップで開講しています。特定分野に苦手意識を持っている方にはぜひおすすめします。

算数 比と割合特訓A、比と割合特訓B、平面図形特訓

国語 読解力養成講座【物語文編・論説文編・随筆文編】

理科 てこBasic講座、電気Basic講座、化学計算Basic講座

地理総合プラン【前編・後編】

社会 地方別のまとめ再復習プラン【東日本編・西日本編】

※席に限りがございますので、お申し込みは実施教室まで直接お電話をお願いいたします。

講座の詳細等につきましてはホームページよりご確認ください。



個別指導事業本部  
中野 英樹先生

冒頭に述べたように、国語は、なかなか取り組みにくい教科だと思います。

以前こちらのコーナーで紹介したとおり、プリバートでは、授業時間の多くを「精読」に割くことで、さまざまな文章に対応できる「図太い読解力」を養っています。

どうしても時間のかかる教科ではありますが、正しいアプローチで、

こつこつと努力を積み上げていくことで確実に成果を出せる教科だとも思っています。

プリバートを上手にご活用いただき、お子さまの成長と一緒に見守っていきませんか。

まずはご相談だけでも結構です。皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

### お問い合わせ・お申し込み

SAPIXのパーソナルコーチ  
**VERTICE**  
ヴァーティス

VERTICEお茶の水

80分完全1:1の個別指導



プリバートについてのご相談・お問い合わせは、各教室までお気軽にお電話ください。

お近くの教室を探す▶



**PRIVATO**  
www.privato-sapix.com

プリバート

